

平成29年度第1回 阿波市総合教育会議 会議録

(1)会議 開催日

平成29年10月19日(木)

阿波市役所 2階 災害対策本部室

午後1時30分から午後2時50分まで

(2)出席委員の氏名

市 長	藤井 正助
教 育 長(委員)	坂東 英司
教育長職務代理者	大戸井 美生
委 員	重清 由充
委 員	森 勝正
委 員	庄野 憲二
委 員	西渕 利江

(3)委員を除く、議場に参加した人の氏名

阿波市議会 議長	江澤 信明
阿波市議会副議長	森本 節弘
阿波市議会 文教厚生常任委員会 委員長	松村 幸治
副市長	町田 寿人
政策監	木具 恵
教育次長	妹尾 明
教育次長	湯藤 義文
教育総務課課長	猪尾 正
学校教育課課長	成谷 史代
伊沢小学校教諭(英語推進コーディネーター)	美馬 宏紀
企画総務部長	後藤 啓
企画総務部次長	野崎 圭二
企画総務課主幹	伊坂 典恭
企画総務課主査	藤岡 知寛

(4)傍聴人

傍聴人 0名

野崎次長	<p>皆さんお揃いでありますので、ただいまから「平成29年度第1回目の総合教育会議」を始めさせていただきます。本日の出席者につきましては、別紙2の席次表のとおりでございますので、紹介に変えさせていただきます。</p> <p>それでは、ただいまから阿波市総合教育会議を開催いたします。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、初めに、「藤井市長」よりごあいさつを申し上げます。</p>
藤井市長	<p>平成29年度第1回目の総合教育会議開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。</p> <p>まず、教育委員の皆様方におかれましては、ご多忙にもかかわらず、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、平素から本市子どもたちの健全育成のため、ご尽力いただいておりますこと、重ねて厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、本日は、江澤議長、森本副議長、松村文教厚生常任委員長には、ご臨席をいただきましてありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、市長と教育委員会が、互いの役割・権限を尊重しつつ本市教育の将来像や課題を共有し、効果的な教育行政を進めるため設置された総合教育会議は、平成27年11月に「阿波市教育大綱」を定めまして、「あすに向かって 人の花咲くやすらぎ空間・阿波市」の実現に向けまして、市の将来を担う人材育成を推進しているところでございます。</p> <p>また本市におきましては現在、「輝く阿波市に煌めく未来」阿波市総合戦略を策定しまして、様々な事業に取り組んでおりますけれども、教育分野におきましては、若者が安心して家庭を築き、子どもを産み育てたいという希望を実現するため、全ての市民の皆さまが「子どもは阿波市の将来を担う大切な存在である」との共通認識に立ちまして、社会全体で子育て・教育を支援していく環境整備を進めているところでございます。</p> <p>この総合教育会議におきましても、さまざまなご意見をいただき、教育環境整備等の充実に努めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本日の総合教育会議では、阿波市教育大綱の基本方針である1項目の、「食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」と4項目の「情報教育の充実と、国際感覚豊かな人材育成」に関連いたします「阿波市における小学校の英語教育について」をご協議いた</p>

	<p>だくこととしております。</p> <p>阿波市では、県下でもいち早く、平成18年度から、市内全小学校に、英語指導講師を配置し、各学年におきまして外国語活動を実施しています。子どもたちは、外国語に慣れ親しみ、言語や文化について体験的に理解を深めますとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力が養われて、就学前から中学校の英語教育へと切れ目のない教育が行われております。また「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、阿波中学校区内で、英語活動から英語教科化への研究が実施されており、本日は、英語推進コーディネーターであります伊沢小学校の美馬先生に、その教育研究の状況や、取り組みの効果等についてのお話をお聞きしたいと思っております。</p> <p>限られた時間ですけれども、阿波市のよりよい教育実践のために、ご意見等をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
野崎次長	<p>続きまして、「坂東教育長」よりごあいさつをお願いします。</p>
坂東教育長	<p>本日、江澤議長、森本副議長、松村文教厚生常任委員長のご臨席をいただきまして総合教育会議が開催されますこと誠にありがとうございます。はじめに一言お礼を申し上げます。</p> <p>阿波市内小中学校では8月25日から二学期がスタートいたしました。兼ねて進めておりましたエアコンの設置工事が終了し25日から14校一斉に運転を開始することができました。快適な環境の下で学習することとなり児童生徒、教職員、保護者共々大変喜んでおります。これひとえに、市長、議会の皆さまのご理解、ご支援の賜物であると深く感謝をいたします。</p> <p>さて、教育委員会制度の改正に伴いまして、市長と教育委員会委員で構成するこの総合教育会議、平成27年にスタートいたしまして市の教育に関する総合的な施策を市長と協議・調整をし阿波市教育大綱を作成することが出来ました。教育委員会では平成28年、この大綱の基に第一次阿波市教育振興計画（後期計画）を策定し新たな教育行政の施策を計画に基づいてそれぞれ実施をしているところでございます。阿波市は子育てのまち、そして、住み続けたいまち阿波市として一定の評価を頂いております。こうした阿波市の未来はひとえに人材の育成にかかっておりまして、これからの変化の激しい社会を生き抜くことが出来るよう</p>

	<p>学校教育では生きる力を確実に身に付けさせることが求められております。合わせて生きる上での基本であって知・徳・体の基本となります。食育を推進するとともに阿波市の強みを生かしたこれまでの教育施策を継承しつつ国際理解教育や情報教育など充実を図っていくことが大切であると考えております。教育委員会では英語教育・ICT教育・学力推進これを三本の矢と考え重点的にその推進を図っているところです。本日は本市が他郡市に先駆けて実施しております、英語教育について話し合いがもたれます。グローバル化が進行する現代社会において子どもたちには多様な人との関わりやさまざまな経験を積み重ねることが大切であります。英語活動・英語教育に取り組むことによりましてコミュニケーション能力を高めること、異文化を理解すること、日本人としてのアイデンティティを培っていくことが出来るのではと考えております。詳しくは担当の方からご説明いたします。これまでの英語の授業の様子・成果・課題等を共通理解していただきまして市長、教育委員の皆さまの率直なご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
野崎次長	<p>それでは、議事に入りたいと思います。議事は市長の進行で進めていただきたいと思いますので、藤井市長、よろしくお願いいたします。</p>
藤井市長	<p>それでは、次第に従いまして議事に入りたいと思います。 まず、議題の一番目、「阿波市教育大綱の変更について」であります。事務局より説明をお願いします。</p>
野崎次長	<p>それでは、事務局の方から説明させていただきます。資料1をお願いいたします。この教育大綱は、平成27年11月に定められました。大綱の基本理念である、「あすに向かって人の花咲く 安らぎ空間・阿波市」は「第1次阿波市総合計画」の中で実現を目指してきたもので、今回、新たなステージへと進めるため「第2次阿波市総合計画」が策定されました。この計画の中では、「あすに向かって人の花咲く やすらぎと感動の郷土・阿波市」を将来像として目指すことから教育大綱の1行目「やすらぎ空間」の部分を変更したいと思っておりますので、ご承認をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
藤井市長	<p>いま、事務局より「阿波市教育大綱の変更について」説明がございま</p>

<p>美馬教諭</p>	<p>した。</p> <p>この件につきまして、ご承認をいただきたいと思いますが、ご意見ございませんか。</p> <p>それでは、ご承認いただいたということで進めさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、議題の二番目、「阿波市における小学校の英語教育について」であります。</p> <p>事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>失礼します。伊沢小学校の美馬です。</p> <p>英語推進コーディネーターをさせていただいております。</p> <p>今日は、このような場でお話をさせていただく貴重な機会をいただき、感謝をしております。</p> <p>小学校の英語教育について、ということで30分ほど、お時間をいただきたいと思いますと考えております。</p> <p>今日お話しさせていただく内容は、この2点になります。</p> <p>1つ目が阿波市の英語教育について、2つ目が阿波中学校区で平成26年度より取り組んでおります、外国語教育強化地域拠点事業について、この2つについてお話をさせていただけたらと思います。</p> <p>阿波市では、平成18年度より、地域の英語が堪能な人材を英語講師として市内全小学校に配置し、学級担任と英語講師のTTによる外国語活動を全学年で週1時間実施しております。英語と子どもたち、英語と先生方をつなぐ英語講師の存在がこれまでの阿波市の英語教育の発展のポイントとなっております。</p> <p>目標は、このように設定しております。</p> <p>「英語を通して、コミュニケーションを図ることの楽しさを味わうこと、積極的に人と関わろうとする態度を育てること、自国や外国の文化を体験的に理解すること」を大切に考えております。</p> <p>続いて、どんなことをしているのということをお話しします。</p> <p>小学校低学年では、身体活動を好むということ、直感的に英語の音やリズムをつかむことができること等の特性を生かし、主に歌やゲーム、絵本などを用いて活動を進めます。</p> <p>ほんの一例なのですが、2年生の子どもたちが、6年生に読み聞かせをしてもらったお礼に歌をプレゼントする一場面をご覧ください。</p> <p>【動画】2年生の歌</p> <p>♪Today's Monday, Today's Monday, Monday runner beans, All you</p>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

hungry children, Come it up.

6年生を前にやや緊張していますが、このような楽しい活動を通して英語に親しんでおります。

中学年では、関わり合うことを通して基本的な英語表現に慣れ親しむことを大切に考えます。

ここに写真で紹介させていただいた活動では、児童が友達との関わり、先生との関わり、ALT との関わりのなかで楽しみながら英語に慣れ親しんでおります。

小学校高学年では、文化の違いなどに触れると共に、自分の気持ちや考えを伝え合うことを大切にしています。

ほんの一例ですが、このような活動が行われています。

【動画】小6児童の将来の夢のスピーチ

What do you want to be?

I want to be a nurse in my future.

My mother is a nurse.

I want to study very hard.

Thank you.

また、幼稚園・こども園との連携も行っています。

平成28年度より試行的に開始した幼稚園英語活動事業は、平成29年度には、市内全幼稚園・こども園年長児を対象に、園児の発達段階に応じた楽しい英語活動を、平成29年度は各園6回ずつ行いました。

昨年度幼稚園英語活動を経験した、今年度の小学校1年生は、担任の先生によると、「英語って楽しい」というイメージをもって入学するため、入学直後から積極的に英語の学習に取り組むことができているということです。

これらの10年間の取り組みの成果により、年度末に行った児童へのアンケート調査によると、「英語の学習に進んで取り組んでいますか」という質問に、85%の児童が肯定的に回答していました。

全国平均よりも14ポイント上回る結果となりました。

阿波市の小学校英語教育は、児童の心を動かし、児童が英語の楽しさ、コミュニケーションの楽しさ、関わることの楽しさをじゅうぶんに味わいながら、大きく子どもたちを成長させることに繋がっています。

続いて、外国語教育強化地域拠点事業における阿波中学校区への取組についてお伝えします。

学習指導要領の改訂の流れの中で、小学校の外国語教育の早期化・教科化が大きな議論の論点となっていました。阿波町3小学校と阿波中学校、

阿波西高等学校は、平成 26 年度より文部科学省から外国語教育強化地域拠点事業の委託を受け、学校間の連携を深めながら、これまでの小学校英語活動を生かした、新たな外国語教育の開発に取り組んでおります。

研究主題と副主題をこのように設定しました。研究主題は『語学力・対話力を備えた豊かなコミュニケーション能力を育む英語教育』です。

副主題は『人とのかかわりを通して成長する児童生徒の育成を目指して』としました。

ここで研究主題に関わる、私たちが育成したい豊かなコミュニケーション能力について説明いたします。

コミュニケーション能力についてはこれまで様々な定義がなされていますが、私たちは、豊かなコミュニケーション能力を

- ①自分の思いや考えをしっかりとつこと、
- ②相手に伝わるように表現すること
- ③相手のことを理解しようとする
- ④互いに認め合いながらよりよい関係を築いていくこと

の4つの要素からなるものと定義づけました。

さらに具体的に研究を進めていくため、このような全体計画を作成しました。今日はこの全体計画をもとに取り組みの内容を発表させていただきます。

研究内容のひとつめ、相手意識を大切にしたコミュニケーション活動の展開について、お話しします。

まず、相手意識とは何かということに関して、私たちは相手のことを知りたいという意識、自分のことを伝えたいという意識、そして、相手と共に成長したいという意識と定義づけました。外国語活動・教科外国語ともに、相手を大切にしたコミュニケーション活動を行うことにより、豊かなコミュニケーション能力を育てていこうと考えました。

さらに、相手を意識したコミュニケーション活動を行うために、「誰と伝え合うのか」「何を伝え合うのか」「どのように伝え合うのか」そして、「何のために伝えあうのか」の4点について明確にし、児童の実態や興味関心に即した活動を設定することを大切に考えました。

この単元では、単元末の活動に、児童にとって大切な人に、自分たちの夢をビデオレターで伝えるという活動を設定しました。将来の夢について教えてもらったことへの感謝の気持ちをこめて、自分の夢を伝えるという目的をもち、言い方を練習したり、伝え方を工夫したりと、最後まで意欲的に学習することができました。

その一部ですが、ご覧ください。

【動画】 児童が作成したビデオレターの一部

児童 A

I want to be a diplomat in my future.

I want to study English and international culture.

児童 B

I want to be an ice cream shop owner, because, my parents work in the shop.

一人目の女の子が話していた **diplomat** は外交官、二人目は **Icecream shop owner** と言っていましたが、阿波町にあるドルチェの娘さんです。このように、いつも児童が相手を意識した活動を行うことができるように配慮し、外国語の学習を進めております。

続いて、研究内容の2、学級や児童生徒の実態を生かした体験的な外国語教育の実践について、効果的だった取り組みをお伝えします。

他教科、他領域、学校行事や学校の特色ある教育活動、児童生徒の日常の生活場面と外国語教育を効果的に関連させ、児童生徒の心が動く学習活動の展開を目指しました。

例えば、阿波市で推進している食育の学習で学級園で野菜を育てていることと、外国語活動とを関連させ、ピザを作ろう！という学習をしました。

野菜に関して高まった興味関心を英語の学習にそのまま持ち込むことができ、子どもたちは意欲的に学習に取り組んでいました。

他教科と関連させることにより、伝え合う内容に自分なりのこだわりが生まれ、このことを伝えたいという思いが強くなることがわかりました。

さらに、学習発表会、修学旅行、運動会、宿泊活動など、特別活動の学校行事や児童会活動と英語の学習を関連させることにより、児童生徒が高い意欲をもち、コミュニケーション活動に取り組むことができるようになってきました。

また、外国語の学習で学んだことが、他教科・他領域で生かされる場面も多く見られるようになりました。外国語活動と他教科・他領域は双方向的に関連させていくことができることがわかりました。

先日行われた運動会で、英語を取り入れた種目を行いました。

少しですが、ご覧ください。

【動画】 運動会

What sport do you like?

I like soccer.

児童が楽しみにしている行事の中に英語を組み込む工夫をすることにより、より楽しく英語を聞いたり話したりすることができました。

続いて、低・中学年の外国語活動を生かした、高学年の教科「外国語」における教育課程や指導方法、評価方法の研究の取り組みについて報告いたします。

教科「外国語」の目標は、平成 29 年 3 月に文部科学省より示された新学習指導要領に基づいております。

英語を用いた言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質や能力を育成することを目指します。

少しわかりづらいので、これまでの外国語活動と比較してお伝えします。

まず、学年については、外国語活動が阿波市の場合 1 年から 4 年、教科外国語が 5・6 年となっております。

また、外国語活動が外国語の音声に慣れ親しむことを目標にしていることに対して、教科外国語では、慣れ親しむのではなく、聞くこと・話すことの学習内容を定着させること、さらに読むこと・書くことの内容を扱い、慣れ親しむことを目標にしています。

授業時数については、外国語活動が年間 35 時間、教科外国語は年間 7 0 時間となっております。

週時数について少し詳しくお話をします。

1～4 年の外国語活動では、通常の週時数に、外国語活動を 1 時間加えて実施しております。

しかし、4 年生では、通常の週時間割でもういっぱいなので、外国語活動の 1 時間が確保できません。

そのため、国語の 1 時間を、朝の会の前の 1 5 分を有効利用し、短時間学習で行うこととしました。

3 回の短時間学習の実施で 1 時間と数えることとしています。

外国語科では、週 2 時間の外国語科を行っています。

通常の 5・6 年生の時間割では、外国語活動として 1 時間のみ確保されておりますが、先ほどの 4 年生と同様もう 1 時間の確保が難しい状況となっております。

久勝小学校・林小学校では、週 2 時間の外国語科を行っています。

また、伊沢小学校では、総合的な学習の時間を減らさず、週 2 時間の外国語科と国語の短時間学習を行う場合と、週 1 時間の外国語科と外国語の短時間学習を行う場合を学習内容等によって使い分けております。

続いて、実際の単元作りの考え方を比較します。

外国語活動では、1 単元あたり 4 時間を目安に、まず、単元のゴールと

なる活動の場面や状況を設定し、必要な言葉や表現を考えます。そして、①出会う②慣れる③使うという流れで学習を進めることができるようにします。

教科外国語では、さらに、目的をもって音声に慣れ親しんだ表現を書き写す場面、そして学習したことを活用する場面を設定します。

外国語活動では、歌やゲーム、ロールプレイが学習活動の中心になることに対して、教科外国語では、それら加えて、相手意識や目的意識を大切にしながら簡単なスピーチやプレゼン、更なるコミュニケーション活動を行います。

また、評価についても、外国語活動が主に実際の活動場面から見取る行動観察や、振り返りシートの分析により児童の学習状況を把握していくことに対して、教科外国語では、学習内容の定着を目指すという視点から、それらに加えてリスニングテスト形式のチャレンジクイズや、児童の活動の様子を、評価者が観点を持って見て、目標の達成状況を分析していくパフォーマンステスト等を行っています。

大きなポイントのひとつとして、小学校卒業段階で、英語を使って、何が、どれだけできるようになるといいかについて確認し、到達目標として設定しました。どんな子どもたちを英語を通して育てたいかを共通理解し校区の小学校で足並みを揃えて外国語教育を行い、中学校へ送ろうということです。

さらに、到達目標の達成に向けて、その具体的な姿を動画で確認し、校区の教職員間で共有しました。実際の動画をご覧ください。

【動画】パフォーマンステストの動画 1

What do you want to be in your future?

I want to be an illustrator, and you?

この子は、決してぺらぺらと英語を話すことができるわけではありませんが、その単元で学習する基礎的な英語表現は話したり聞いて理解したりすることができています。

さらに、相手の目を見て話しをしたり、相槌をうったり、わかったことには「ああ」と反応したり、相手を大切にしながらコミュニケーションができています。

もちろん児童の個性は尊重しながらですが、全員がこのように話したり聞いたりすることができるようになることを目指します。

【動画】パフォーマンステストの動画 1

What country do you want to go?

I want to go to Canada. Canada is wonderful.

さらに二人目の女の子は、これまで学習した表現を活用し、自分の気持ちや考えを伝えることができています。

教科外国語では、話すこと・聞くことの学習内容の定着を目指しているとお話ししておりますが、決してただ無目的に英語の表現を覚えて話すようなことを繰り返し行っているわけではありません。

「誰に」「何を」「どのように」「何のために」の4点を明確にしたコミュニケーション活動の中で、定着を目指します。

6年生では、オリジナルの絵本をつくり、2年生に読み聞かせる活動を行いました。

これまでの学習の中で十分に慣れ親しんだことのある表現や、相手を大切にしたり話しかけ方・聞き方等を活用し、自分たちがつくった大切な絵本の内容がよりよく伝わるように、意欲的に学習に取り組みました。

【動画】児童の読み聞かせ

I see something brown.

Are you a... beetle.

Yes, I am. I'm a beetle.

きっとよりよく伝えるために、たくさん練習したのでしょう。

しっかりと英語を自分のものにして話しているこの子たちは、学習内容がきちんと定着していると考えられます。

教科外国語では、このような学習を単元の内容に応じて工夫して行っています。

読むこと、書くことの学習については、聞くこと・話すことの学習内容と関連させ、児童の書くことの目的意識と、伝えたいという気持ちを大切に、4線上に丁寧に、そして正確に書き写すことができることを目的に行っています。

決して私たちが中学校で体験したような、書いて書いて書いて単語を覚えるといったことを行うのではなく、十分に音声で慣れ親しんだ語句や表現を、思いを込めて、大切に書くということを大事にしています。

この学習では、将来の夢を伝えあう音声での活動と関連させ、時間を超えて気持ちや考えを伝えることができるという文字の良さを生かし、卒業アルバムに載せるといった目的をもってカードに将来の夢を書きました。

ここまで、様々な取組について説明してきましたが、ここからは、取組みの成果と課題について少しお話をします。

まず、成果です。

これらの取組みを通して、まず、児童が外国語の学習に進んで取り組

湯藤次長	<p>むことができるようになりました。相手のことを知りたい、相手に自分のことを伝えたいという思いを大切に学習を繰り返し行うことで、児童のコミュニケーションを図りたいという気持ちが高くなってきました。</p> <p>高学年については、全国平均と阿波市の他地域を上回るアンケート調査の結果となっております。</p> <p>相手を大切にしたいコミュニケーションができるようになってきました。</p> <p>相手のことを考えながら伝えあうことを通して、友達や自分の良さに気づくことが多くなってきました。</p> <p>また、望ましい話し方、聞き方が英語以外の他の場面でもできるようになりつつあります。</p> <p>平成 28 年度の英語能力判定テストにおいて、小学校 6 年生で教科型外国語を経験した阿波中学校 1 年生は、5 級到達レベルの割合が県平均より 9 ポイント高かったという結果となり、学習内容の定着ということに関して、教科外国語の取組はおおむね効果的であったと考えられます。</p> <p>また、課題としては次のことが挙げられます。</p> <p>まず、新学習指導要領に対応した単元目標や評価基準の改善、評価方法の研究です。文科省より示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの観点に対応した単元目標や評価規準を作成しているところではありますが、改善すべき点があります。</p> <p>次に小中連携が挙げられます。小学校の楽しい学びを中学校へ接続させていくことが大切です。</p> <p>そして、先ほど説明した時数の確保の仕方と学級担任と英語講師のさらなるよりよい TT のありかたの検討です。また、今後改善に向けて努力していきたいと思っております。</p> <p>最後に、言葉だけでは伝えきれない部分を、映像でお伝えすることができたらと思っておりますので、ご覧ください。</p> <p>【動画】略</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p> <p>それでは失礼いたします。</p> <p>続きまして、阿波市の今後の英語教育について簡単に説明をさせていただきます。資料 3 をご覧ください。</p> <p>現在の小学校の学習指導要領では小学校の 5 年生 6 年生に週 1 時間の</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

英語活動がございいますが、平成32年度から全面実施されます小学校学習指導要領では、これまでの5・6年生で実施しておりました英語活動を3・4年生まで広げ、話すこと聞くことを中心とした年間35時間を活用し、英語に慣れ親しませたり、英語学習の動機づけを高めることとなります。

さらに、5・6年生では段階的に文字を読んだり書いたりすること、これを年間70時間行う英語活動ではなく英語科として位置付けることになっております。それに伴いまして来年度から移行期間ということになるわけなのですが、阿波市では先ほど美馬先生の発表でもあったのですが平成18年度から全ての小学校に英語講師を配置し国に先駆けて小学校1年生から6年生まで週1時間の英語活動を実施してまいりました。これまでの研究や現在の阿波中学校区で現在進めております英語の教科化の成果を踏まえまして、阿波市の方針といたしまして、来年度から、これまで通り小学校1年生からの英語活動は当然継続するとともに阿波中学校区で研究してまいりましたこの研究成果を阿波市全ての小学校に広げるために小学校5・6年生の英語の教科化について先行実施をいたします。

それから発表にもあったのですが、さらに本年度はALTや英語講師を7月から年間6回幼稚園・こども園の5歳児を対象にした英語活動も実施しておりまして、これも続けていきたいと思っております。

この英語教科化の取り組みでございいますが、県下の状況が5月の徳島新聞に掲載されておりました。その時は県下24市町村の内5市町村が英語の先行実施をすると決めておりました。鳴門市・小松島市・佐那河内村・石井町・神山町と記載がございました。本市はその段階では検討中ということで記載されていたと思いますが先日問い合わせをしますと、現時点では9の市町村が先行実施をすることを決めているようです。平成31年度からは14の市町村で実施予定ということを知っています。

英語の教科化の先行実施をするにあたっての課題や対応についてその後いろいろ書いてあるのですが、まず、時間数の確保が大事だと思います。年間70時間を確保する必要があります。現在、阿波中学校区の方は年間70時間しているのですけれども従来ある外国語活動プラス総合的な学習の時間というものがございいますが、そこから週1コマ、つまり、1時間を確保する方法、それと朝の短時間学習（15分×3）を使って合計45分の1時間を確保するという方法の両方が阿波中学校区の方で実践されております。

それから、文部科学省の方からは総合的な学習の時間を15時間外国語、英語科へ振り替えることも可能という方針も出されておりますので今後、来年からの先行実施に向けまして双方の長所を生かし短所を補えるような時間割の工夫というものをしながら学習時間を確保していくことを校長会等で検討していただいているところでございます。

それから、指導計画がやはり必要ですけれども指導計画につきましてはこれまでの10年の積み重ねがございますので、それを見直しを進めてきたところでございます。同じような題材を、繰り返し繰り返し勉強する中でレベルを高めていくような指導計画を作成しておりまして毎年見直しているというところでございます。

それから、教科外国語、教科英語の指導計画については現在阿波中学校区の3小学校で作成しておりますのでそれを阿波市全体に広げていくと、これまでの課題であるとかそういったものを検証しながらでございますが年間指導計画の中に反映していくという方法を考えております。

それから、教科になってきますと、評価というものが必要になっているわけなのでございますけれども、通知表にどう記載するか、そういったものでございますけれども、これも現在阿波中学校区で実践しております、観点別に3段階評価で行っているのですけれどもそれを広げていきたいと考えておりますが、これも、校長会を中心に検討を進めております。文部科学省の方は移行期間中、つまり平成30年度、31年度の英語科の先行実施の評価方法についてはまだ方針を打ち出していない状態でございますので今後の動きを注視してまいりたいと思っております。

それから、教材についてですけれども、教科書が中心になると思うのですけれども、これまでも色々実践で積み上げてきたものがございまして、それを効果的に活用するとともに文科省の方におきましては小学校外国語・外国語活動の教材がダウンロードできるようなサイトが用意されておりますので活用していきたいと思っております。

1番大きなものは1番最後の教員の指導力の向上の問題だと考えておりますが平成18年から平成26年あたりまでは配置していただいております英語講師が中心になって授業を進めておりました。英語講師任せというところも無きにしもあらずというところもあったわけですが、平成27年度からは学級担任が中心となりまして英語講師がサポートするという両者がそれぞれの良さを活かした授業が行われるように方針が展開されております。次年度からも英語に堪能な英語講師を各小学校に配置して効果的な指導方法を研究していきたいと考えております。

	<p>これまで、本市におきましては指定研究がありまして校区の外国語教育推進委員会を開催したり、小学校、中学校の連携とか、また講師を招聘して夏休み中に研修会を実施したり、校内研修や授業研究会を実施してまいりました。阿波中学校区の4年間の指定研究が終了いたしますので、今後厳しい面もございますが可能な限り総合教育センターに本年度から小学校英語の指導主事が配置されるようになったことや鳴門教育大学に小学校英語センターがありますので、そういったものを活用しながら研修を続けることによって教職員の指導力を高めていきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。よろしく申し上げます。</p>
藤井市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>いま、事務局から「阿波市における小学校の英語教育について」パワーポイント及び資料に基づき説明がございましたけれども、阿波市の英語活動・英語教育の動画や写真を見せていただき、子どもたちは、明るくて、楽しそうで、笑顔に満ち溢れていました。英語を自然と取り入れ、また取り入れようとする表情がとても豊かで、うれしくなりました。</p> <p>阿波市は、他の市町村に先立ちまして早くから英語活動を始め、英語指導講師を配置するなど、阿波市の子どもたちが将来グローバルな視野を持って、活躍できるように力を入れてきました。このような阿波市の強みを生かした教育施策は、子どもたちが生きる喜びや学ぶ楽しさを味わえる教育施策のひとつだと確信しました。</p> <p>先行実施の高学年では、英語を教科にするということで、課題も多くありますが、外国語教育強化地域拠点事業の4年間の成果を阿波市にひろげて、英語を学習する時間が楽しいと思える子どもたちが増えるように教育環境を整えていきたいと思えます。</p> <p>それでは、この件についてご意見をいただきたいと思えます。ご自由に発言をお願いします。よろしく申し上げます。</p>
重清委員	<p>私が小学校で、子どもたちが英語の授業を行っている様子を初めて見せていただいたのが、阿波市が小学校1年生から外国語活動を始めて3～4年ほど経ってからの学校訪問の時でした。その頃は英語講師の先生が主体となって担任とともに指導されておりました。その時私が目にしたのは、講師はほとんど英語で子どもたちに話しかけ、その指示をする講師の先生の表情の豊かさ、笑顔で1人1人の児童を見て全身を使って楽しく英語を表現していたこと、誰よりも元気よくはきはきした声で語</p>

庄野委員	<p>りかける講師の先生の姿でした。それに対して子どもたちがとても楽しそうに笑顔で目を輝かせ指示に従い活動し、学んでおりました。私は思わず立ち止まって、授業が終わるまで子どもたちと一緒に学びたくなるような時間だったと記憶に残っております。</p> <p>阿波市では先ほども美馬先生の方からお話がありましたように、英語活動をはじめて11年目になります。市内の全ての小学校に、英語が堪能で子どもと触れ合うことが好きで、意欲がある地域人材の英語講師を配置していただき、そのうえ月に1回ALTの先生も各小学校に来て指導していただいております。私は小学校に「おはなしベルの会」や放課後学習などで伺うのですが校内放送で挨拶などを英語でよびかけたり、廊下や階段、掲示板に世界の国の名前や1月から12月までの月、曜日、体の部位など英語でわかりやすくカラフルに、また、校長室や保健室、家庭科室や図工室などの名称も英語で表記しています。10年かけて英語に対する興味・関心を示す環境を整え、各小学校での良い部分を取り入れながら今日があります。毎日、目にする英語の掲示物は阿波市が先駆けて行ってきた英語教育の「聞く・話す」の上に「読む・書く」事への興味・関心にも繋がると思います。</p> <p>また、英語講師である先生方は授業以外でも許される限り、子どもたちと触れ合い、普段の生活の中でも、いけないことはいけないと言える関係性、コミュニケーションがとれているので自然な形で授業に入ることが出来ております。小さな頃から英語に関わることで表現力も豊かになり失敗を恐れず、自分の思いを相手にいかに伝えられるか、自分なりに考えコミュニケーション能力も高まると思います。</p> <p>先ほどの資料5ページ6ページにもありますように、学級や児童生徒の実態を活かした体験的な外国語教育の実践などグローバル化に対応した英語教育、学校教育がなされ指導にあたられている先生方はもちろんのこと、保護者や我々も子どもの成長ぶりに大変喜びと期待を持っております。以上が今、私自身が感じておりますことです。</p> <p>今、美馬先生が阿波市内の英語活動について丁寧に説明していただき、また、次長さんから市の英語活動に対する説明をしていただき、今の現状や子どもたちが非常にコミュニケーション能力をつけてきていることを再認識しました。</p> <p>5月から学校訪問をさせていただいたのですが、中学校での英語の授業はもちろんのこと、小学校でもたくさんの学校で英語の授業を見せていただきました。1年生の子どもたちに担任が非常に楽しく授業を進め</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>大戸井教育長 職務代理者</p>	<p>ているのを見て先生方の指導力も非常についてきているなという感じを受けました。これは、先ほど湯藤次長からもお話があった、T1（ティーン）を担当がすることになったことも原因かもしれません。</p> <p>それから、英語指導講師とかALTの方と複数で授業を行っていることで授業に深まりを感じました。</p> <p>担当がT1（ティーン）で授業を進めることには個人的な意見も別にあるのですが、それはさておいて阿波市における英語教育に対する地道で継続的な活動が成果を出しているし、市で英語指導講師を配置してくださっている事が英語教育の発展につながっていると思います。</p> <p>先ほどのお話にもあったように2020年度から小学校5・6年で英語科として週2時間教える事になるのですが、今の先生方で学生の時に英語の指導方法を学んでいる方はごく限られていると思います。先生になってからそういう指導の力を身につけてきたと思うのです。これから将来的には小学校教諭になるのに英語の指導力を学生の間につけるようになると思うのですが、今その中でこの英語指導講師の配置というのが非常に市として素晴らしい、県下でも数少ない取り組みだと思います。8月に文科省が小学校で英語や体育などを担う専科教員を2200人程度増やすようニュースが出ていましたが、阿波市は以前から英語講師を確実に確保している。この取り組みをこれからも続けていって、それとともに教員の研修を深めていくことがこれからますます阿波市の英語教育の充実に結びついていくと思います。</p> <p>まず阿波市の素晴らしい所を言わせていただきました。</p> <p>自分の子どもの事を思い出して考えると、平成18年からこのような取り組みが始まっているということで、ちょうど子どもが3人いるのですけれど、21歳の長男が小学校4年生の頃からスタートしたということで思い返せばどういった良い影響が出ていたか親として見てやれていなかったかなと思うのですが、いろいろな外国の先生方と接している時は、やはり大人と子どもという関係だったと思うのですけれども、それが成長するにつれていろいろな外国の自分と同じ年くらいの人たちと段々触れ合っていくうちに、同じ悩み、同じ趣味、同じ話題というものがあるということがわかり、それが非常に成長に繋がっていったかなと思います。</p> <p>そういった経験から、今ご説明いただいたように外国の文化に触れるということもありましたけれど、同時に、そういった同じ世代の子どもたちと触れ合う機会を設けたうえに、大綱にもありますように郷土の文</p>
-------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

森委員	<p>化や歴史を知り、コミュニケーションを深めていくということが会話力にも繋がるのではないかなと思いました。</p> <p>さらに、その他の教科とも連携して非常にそのあたりも深めているということは非常に良い教育の進め方ではないかなというふうに思いました。</p> <p>また、この教育が、将来等身大の自分達と同世代の人と触れ合う機会を阿波市として多く作って頂ける事を今後期待したいと思います。それは自分達と同世代の人たちを招く、あるいは、こちらから送る、そういった機会をたくさん作っていただくということを期待しまして、私の意見と思いにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>先日、切幡寺にあがる参道の途中の店に寄りましたら、外国人の夫婦が私に向かって、あまり聞き取れない言葉で話しかけてきました。「Temple」（お寺）という一言だけ聞き取れました。切幡寺に向かう参道ですから、「kirihataji Temple?」と確認し、切幡寺への行き方を英語で「Go straight this way」加えて「800メートル、石段が・・・」とも英語で話しました。その夫婦はニコニコしながらお寺に向かいました。咄嗟だとなかなか分からないのだけれど、一言だけ分かって、言葉でいろいろな人と交流するのは、相手の気持ちを理解しようという気持ちがあれば外国の方との交流も少しは大丈夫なのではないかと思いました。</p> <p>今の子どもたちにも誰かのために理解し、何かしようという気持ちを持ち続けてくれることが、外国人を含めて人間同士関わり・交流を生んでくれるのではないかと思います。</p> <p>阿波市が11年間英語活動に取り組んできて、その間、学校の先生方は大変で、最初のころは時間がとれず朝の15分を寄せ集めて時間を確保したということもありました。そもそもその前だと、子どもの負担増にならないように総合的な学習の時間の中で英語活動をする取り組みも検討してきました。英語活動を積極的に進めていく中で、先ほどから話が出ていますが、市の予算を組んでいただきまして、英語担当の先生（非常勤講師）を各校に配置していただけたことで、現場としては取り組みやすかった気がしております。</p> <p>最初始まった頃には、中には英語が出来ないから小学校の先生になったという人がいましたけれど、他にも、小学校は英語も大事だけれど、基本的な生活習慣の育成や教科の基礎基本の力をつけることも、より大切だと考える先生方も多かったと思います。その後、文部科学省から学習指導要領の中で英語活動から教科としての英語学習へとより明確に位</p>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

西淵委員	<p>置づけられてきました。</p> <p>更に、最初の頃は小学校、中学校とギャップがありまして、もう少し読んだり書いたりという力を付けてから中学校に来てほしいという気持ちが中学校の先生の中にあっただけなんですけど、そういうふうなギャップは今、埋めつつあるし、先ほどの話では、阿波市の取り組みが他の市町村や都道府県のサンプルになるみたいなことも出てきたような気がするんですけども、そうなれば本市の取り組み方は責任は重大かなと思います。</p> <p>先生方が全国的に過労で倒れることも言われておりますけれど、頑張ってくれておりますので、期待する反面、体に気を付けてくださいという気持ちでいます。</p> <p>特に今、伊沢小・阿波町各校が研究校として着実に取り組んでくれておりまして他の学校の先生方にも参考になるのではないかと思います。</p> <p>できれば、小・中の連携の具体的な現状が知りたいです。やはり連携して将来の子どもたちの力になっていかないと、せつかくいろいろな予算を組んでいただいたり多くの関係の方々も苦勞してくれているので、楽しく学習する中でスムーズに将来の子どもたちのコミュニケーション能力につながればいいなというふうに思っています。</p> <p>保護者としての立場からお話しさせていただきます。先生の資料を見せていただいて、本当に子供たちが楽しそうに英語学習に取り組んでいることを感じる事ができました。小学校のころからあのように表現力を養う学習に取り組むことは中学校、高校に向けて人との関わりを持つコミュニケーション能力が高くなる事が期待でき、英語力だけでなく心の成長にも大切だと感じる事ができました。</p> <p>英語教科は小学校まではのびのびと楽しく学習することができていても、中学校入学からは受験のために学ぶことが増え、楽しく学習することが出来ない子がぼつぼつ現れるようなことが現状ではないかと思えます。すべての子供たちがグローバルに活躍したいわけではないでしょうが、自分の進路を切り開くためには英語は必要になるため、小学校での楽しい英語学習としての状態を中学校でどれだけ活用できるかということが課題になるのではないかと考えています。</p> <p>英語教科は他の教科に比べて中学入学までに塾などに通って学習できている子とできていない子とでは能力に大きな差が生じていると感じていましたが、こども園の頃からALTのネイティブな英語を聞き、また小学校でも自然に英語に触れ、興味のある子は積極的に学ぶことが出来る環境</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>坂東教育長</p>	<p>を作ってくださいのおかげで、これからは他の教科と変わらず学習できるようになるのではないかと思います。阿波市の熱心な取り組みに感謝いたします。</p> <p>今、皆さんからお話がありましたが平成18年度から取り組んできたというところで、その時点におきましては現在の様な教科になるとかそういうことは予想されずにスタート時点では阿波市の子どもたちの実態を見た時にコミュニケーション能力というか人と人との関わること、これが不足しているのではないかという先輩の先生方の考えの中で英語を取り入れたら活発に人と話し、そういった態度が養われるのではないかと、そうした意味からスタートしたと思います。学校で授業を見せていただくのですが、英語の授業の教室は非常に明るく、楽しくしています。英語講師と担任と一緒にあって英語教育を楽しいものにしていただいております。</p> <p>人との関わりを通して子どもたちを成長させようという先生方の思いというものはずいぶんと達成できているのではないかなと思います。</p> <p>英語を使って、先ほどの発表にもありましたが、相手の目を見て、相手を大切に、思いやりの心を持って、もっと話をしてみたい、聞いてみたい、伝えあったりしたいということで再度申し上げますけれど基本が育っているなと思いました。</p> <p>小学校の英語について大事な事は英語をマスターするというのではなくて英語を好きになるということが大きな目的だと思います。英語が楽しいと感じられるような、そういった授業づくりを先生方には目指してもらっております。</p> <p>4・5年前までは英語講師に頼ってありまして、文科省が方針を出した時に全国どこの学校もそうでしょうけれども、英語が出来ない、なぜしなければならないのかという考えの先生もいらっしゃいました。担任がその子を一番良く知っているからその上で英語をする、その子のコミュニケーション能力や人格を高めるのであって英語をマスターするのではなく、楽しい英語をしてほしいということで阿波市の先生方に限らず県下のどこの学校の先生方もそうですけれども取り組んでいただいているのではないかと思います。そういう意味合いから言いますと阿波市の中でもやはり阿波中校区、他の校区で温度差というものがあると思います。阿波中校区の成果を阿波市の全部の小学校、中学校に広げていって全体の底上げが出来るようにと思っております。</p> <p>そのためにはALT、英語講師両方と話し合いをして一緒に楽しい</p>
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>藤井市長</p>	<p>授業をやっていきます。小学校で評価という課題があるのですが、出来るだけ英語嫌いにならないように、英語を学んで楽しい、面白い、もっと学ぼうという意欲が高まって中学校に進んでほしいと思っております。教育委員会としてもそういった英語教育の充実に向かって一生懸命支援をしていきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>私もいろいろ今、美馬先生の方から説明をしていただいたり委員さんからのいろいろなお話を聞いたりしました。</p> <p>阿波市も13年になるのですが私も色々こういう立場で、13年間で10年ほど予算編成に携わってまいりました。思い出すのは合併した当時に伊沢小学校が初めて耐震改修しほとんどの小学校中学校を耐震改修してまいりました。</p> <p>今、英語教育ということでよく言われます、ハード授業とソフト授業で噛み合って素晴らしい良いことだと思います。美馬先生の説明も聞きまして感動したのは阿波市の子どもたちがやはり昔の子どもと比べて成長してくれているのは市政を預かる者として本当に嬉しく思います。</p> <p>これからも、議長さん、副議長さん、松村市議会文教厚生委員長さんもおいでしていますので出来る限り財政とも相談しながら頑張っていきたいと思っておりますのでご指導の方よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>他に何かありますか。</p> <p>議論もでつくしたようなので「その他」で何かございませんか。</p>
<p>重清委員</p>	<p>先ほどの英語教育のこととお願ひと感謝の気持ちを申し上げたいと思います。まさに子育てするなら阿波市と言われるほど他の市町村に比べて、はるかに子どもの教育において、ハード面においても市長さんがおっしゃられたようにソフト面におきましても市が力を入れてくださっていることに感謝申し上げます。</p> <p>また、今後外国語教科化に向けて阿波市に配属されている英語講師は、学級担任が外国語教育を円滑に進めていくうえで無くてはならない存在です。是非とも今後英語講師の加配を続けていただきまして、幼稚園、小学校、中学校、高校へと意欲的に学びが繋がっていくようお願いしたいと思います。</p> <p>小学校の先生にお聞きしたのですがALTの先生の中に日本語が堪能な方がいらっしゃって、担任にまだ不安なところがたくさんあってどう指導しようかと思ったときに担任の指導したい意図をALTの先生が理</p>

<p>藤井市長</p>	<p>解してくださって、先生同士のコミュニケーションもしっかりとれており、授業を行う上で大変ありがたいとおっしゃっていました。素晴らしいALTの先生方も配置してくださり、心より感謝いたします。今後も阿波市の教育がますます発展しますよう皆さま、ご支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>他に何かございませんか。</p> <p>それでは、ご意見もないようでありますので、これで議事については終了させていただきます。</p> <p>長時間にわたり、委員の皆さまには貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>では、この後の進行を事務局にお願いしたいと思います。</p>
<p>野崎次長</p>	<p>たいへん、お疲れさまでした。</p> <p>本日の会議については、会議録を作成いたします。委員の皆さまには会議録が出来次第、確認していただいたうえ、ホームページへ掲載する予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これもちまして、「平成29年度第1回阿波市総合教育会議」を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>